

# 国立大学法人熊本大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

熊本大学は、広く海外の諸大学等との人的・文化的交流を通じて、「人の命、人と自然、人と社会」に関する活発な研究活動を推進し、教育・研究活動の成果を活用して、広く地域及び国際社会に貢献することを目的としている。第2期中期目標期間においては、学士課程教育において学習成果に基づいた教育プログラムを整備するとともに創造的知性と実践力に重点を置いたカリキュラムを充実すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、シラバスの英語化や科目ナンバリングの導入の決定、シンガポール国立大学等が企画する海外インターンシップへの参加等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### (戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、国際先端医学研究機構と大学戦略会議の設置により感染領域や造血領域等で国際的に卓越した研究を推進する戦略的・意欲的な計画（平成26年度に中期計画を変更）を定めて積極的に取り組んでおり、平成26年度においては、全学資源（人事・予算・施設）の戦略的活用方針の策定等に関すること等を審議するため、学長及び常勤理事で構成される大学戦略会議の設置を決定しているほか、国際先端医学研究拠点施設（IRCMS）を設置し、国際共同研究を推進するとともに、オックスフォード大学等から世界第一線で活躍している研究者を招待し、IRCMSのキックオフシンポジウムを開催している。

### (機能強化に向けた取組状況)

国際先端科学技術研究拠点施設の開所及び先進マグネシウム国際研究センターを開所するなど大学の強み・特色を生かした研究施設を設置するとともに、教員組織と教育プログラムの分離等の新たな教育研究組織体制について検討するなど主体的な改革を促進している。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ さらなるガバナンス強化に向けた体制の構築

学長のリーダーシップの下、全学資源を戦略的に活用するため、学長及び常勤理事を構成員とし、教育研究等組織の再編等方針の策定、教員の人事管理等を審議する「大学戦略会議」を平成27年度に設置することを決定するとともに、ガバナンス機能のさらなる強化を図るべく、平成27年度に向けて、学長裁量経費を平成26年度比で2億

1,900 万円増額確保している。

### ○ 大学情報の収集・分析・活用の一元化と教職協働組織の設置

教職協働による「大学情報分析室」を設置し、学長と部局長による大学の機能強化に向けた意見交換において、集積したデータを用いて意見交換を行うとともに、オープンキャンパスで、学生・保護者に対するアンケート調査を実施し、学生の大学に対する意識やニーズに関する分析を行い、今後の入学試験に活用するように提供するなど、大学に点在する大学情報の収集・分析・活用を行っている。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

### ○ 学生定員の未充足

平成 25 年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成 25 年度から平成 26 年度において 90 %を満たしていないが、平成 28 年度から学生募集を停止する決定をしていることから、今後、速やかに、学長のリーダーシップの下、これまで培った教育資源の有効活用を図る将来構想をとりまとめることが求められる。

#### **【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程において学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

### **(2) 財務内容の改善に関する目標**

( ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善 )

#### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

### **(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

( ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進 )

#### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

#### **(4) その他業務運営に関する重要目標**

(①施設設備の整備・活用等、②安全衛生管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

##### ○ 研究活動における不正行為

教員が実験結果をねつ造や改ざんしていた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

#### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

## **II. 教育研究等の質の向上の状況**

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

##### ○ 先取り可能な大学院教育プログラムの実績

学部生の段階から大学院の授業を先取りできる「プレ柴三郎コース」において、学生と指導教員の共著による国際学会誌への論文発表が増加するなど、教育プログラムとして優れた功績をあげている。

##### ○ 教育の質的転換に対応した新しいシラバスシステムの導入

教育の国際通用性や教育プログラムの体系化の観点から、シラバスの英語化や科目ナンバリングへの対応、授業目標や評価方法・基準等を明確に表示でき、さらには、授業内容の詳細や事前・事後学修に関する指導についての情報を教員が随時更新することを可能とした新シラバスシステムの導入を決定し、平成 27 年 1 月から運用を開始している。

##### ○ 「国際的卓越研究者」の育成に向けた取組の実施

大学院医学教育部において、国際的に卓越した研究者を育成するために、「エイズ制圧のためのトランスレーショナル研究者育成コース」、「エイズ先端研究者育成コース」、「発生・再生医学研究者育成コース」の 3 つの教育コースを実施し、10 名（うち留学生 6 名）が履修しており、英語による授業及び実習を行っているほか、セミナー及び国際学会においては、英語による成果発表を行っている。

##### ○ 地域課題の解決に向けた取組の実施

新たに「地域創生推進機構」を設置するとともに、産学官連携の関係者による連携協議会を立ち上げるなど、地域課題の解決に向けた事業の推進体制を構築しているほか、地域志向型の教育カリキュラムの開発、研究、地域貢献活動を推進している。ま

た、地方自治体や地域コミュニティが抱える課題に応じるため、「政策創造研究教育センター」において、熊本市からの政策研究員の受入れに加え、新たに菊池市からも研究員の受入れを実施している。

#### ○ 海外大学が企画するインターンシップへの参加

グローバル社会における課題設定・解決能力の向上を図るとともに、国際競争力のあるコミュニケーション能力やネゴシエーション能力を学ぶことを目的に、シンガポール国立大学等が企画する海外インターンシップに参画し、大学院生 15 名が参加している。

#### ○ 多様化した学生相談の支援

学生が大学生活で抱える問題や悩み、トラブルなどを解決するため、学生相談室に配置しているキャンパスソーシャルワーカー 2 名が、出席不良者へ相談を促す文書を通知するなど学生の予防的な施策を精力的に行うことで、平成 26 年度は相談件数は倍増している。

#### ○ チンパンジー血液からの iPS 細胞樹立等の研究の推進

発生医学研究所では、「リエゾンラボ研究推進施設」の拡充を行い、学内外の研究者の活動を促進するとともに、血糖値を調節するインスリンを合成・分泌する膵β細胞をヒト iPS 細胞から作製したことやチンパンジー血液から iPS 細胞樹立に成功するなどの研究成果を上げている。

### **附属病院関係**

#### **(教育・研究面)**

#### ○ 診療科横断的な臨床研究の推進

院内公募により選定された臨床研究プロジェクトである「嚥下障害に対する診療科横断的診療体制の確立」及び「抗血栓薬服用患者の周術期および侵襲的検査時の課題と対策」に対して、研究費（配分額：それぞれ 950 万円、1,000 万円）を配分するなど、診療科横断的な臨床研究の推進に向けた取組を実施している。

#### **(診療面)**

#### ○ 地域における医師確保等に対する支援

「地域医療支援センター」では、熊本県の地域医療支援機構業務の委託を受け、地域病院を対象とした機構業務説明会及びシンポジウムを開催するとともに、地域偏在の解消及び地域での医師育成の仕組みづくりに関する懇談会を開催するなど、地域における医師確保等の支援活動を推進している。

#### **(運営面)**

#### ○ 診療報酬改定に伴う増収に向けた取組

ハイケアユニット（ICU から移されてきた患者を対象とした高度治療室）において重症度等の患者条件を整理することで、診療報酬における上位加算を取得するなど、診療報酬改定に伴う増収の取組を実施した結果、対前年度比 4,000 万円の増収を得ている。